

<仲間?>4月半ばに一気に咲き出しあれよと言う間に咲き終えたのが“ウワミズザクラ”です。名はサクラですが「これがサクラ?」と思うような花です。サクラは沢山の種類があつて私たちにはあまり区別が付きませんが、花一つひとつが長い花柄を伸ばして枝についているのを知っています。ところが“ウワミズザクラ”は長さが10cmほどの穂に小さな真っ白い花をびっしりと付け、そこからはよい香りが漂っています。これに2週間ほど遅れて咲き出したのが“イヌザクラ”です。同じく穂状の花を付けますが葉に紛れてとんと目立ちません。



<ウワミズザクラ>



<イヌザクラ>

実はサクラは“スモモ属”、ここで採りあげた2つは“ウワミズザクラ属”、名前だけサクラが付いているようです。そういえば鯛でないのに“〇〇ダイ”、いろいろあります。桜も鯛も日本人は大好きですね。

<地獄の窯の蓋>道路わきの土手に“キランソウ”の紫の花が地を這うようにして咲いています。別名“地獄のかまのふた”、恐ろしげな名前ですが、この植物は昔から咳、発熱、下痢、切り



<キランソウ>



<フデリンドウ>

傷などなどに優れた薬効がありこれを用いれば「地獄に引き込まれることがない」ということのようにです。同じくよく効きそうなリンドウ(竜胆)の仲間、“フデリンドウ”が所々に咲いています。葉っぱを揉むとキュウリのような匂いのする“キウリグサ”は道端のあちこちで咲いています。道端と言わず舗道の隙間も含めあらゆるところで小さくて可愛らしい花を咲かせているのが“マツバウンラン”です。北米原産の外来種でどんどん勢力圏を拡大しているようです。



<キウリグサ>

<春や春>昨冬の大雪では足跡からキャンパスにタヌキのいることが分かっていました。ただ夜行性の動物ゆえ見かけることはないと思っていたのですが、安心していただいのでしょうか暖かい春の日の野原に姿を現しました。狸は冬の季語ですが、「秋のくれ仏に化ける狸かな」蕪村にはタヌ



<マツバウンラン>

←<タヌキ> キが身近だったようです。(文と写真: 松本正勝)